

CAA 日本システム監査人協会報

役員追加選任の報告

既に案内させていただいている通り、事務局体制の強化及び今期より設けました登録企業（法人）会員の参加にともなう協会の活動のより一層の充実を目的に、役員追加選任投票を実施致しました。

葉書による信任投票という形で、9月28日必着にて投票を締め切り集計した結果、次の通りとなりました。

《信任投票集計結果》

- ・全会員数（発送数）： 495
- ・投票数（回収数）： 337
- ・有効投票数： 337
- ・候補者別信任得票数

役職	候補者名	会社名	信任数	不信任数
副会長	牧野 恭人	(株)産能コンサルティング	337	0
理事	平田 哲康	(株)日本マネジメントアカデミー	337	0
理事	相川 正克	NTTデータ通信(株)	337	0
理事	中島 重夫	日本コンピュータセキュリティ(株)	337	0
理事	一村 義夫	(株)日立情報システムズ	337	0

全会員の過半数の投票があり、また5名の候補者ともその過半数の信任を得ました。

さらに、平成4年10月12日の理事会において結果の確定を行い、上記5名の方が正式に役員として選出されました。

名古屋支部便り

皆さんこんにちは、名古屋支部です。東海道の要所にありながら、東京でもなく大阪でもなく、ましてや京都でもない名古屋です。ただけど思いっきり名古屋人ばかりの集まりかというところでもございません。25名ほどのメンバーもほとんど名古屋弁は話しません。岐阜県や滋賀県や静岡県や三重県のメンバーもいますし、全国行脚の途中で名古屋勤務になっているエリートサラリーマンもいます。

だから、2ヶ月に1回の例会もたいてい標準語?で行われています。支部設立当初は自主例会ということで会員相互の情報交換が主体でしたが、その後の懇親会も同様に重要な案件でした。近年、優秀でまじめな合格者が入会されるにしたがって、例会の質の向上が特に要求されるようになりました。（試験がとりわけ難しくなったのでしょうか?）。

去年・今年は講師をお招きしての例会となっています。協会の本部から来て頂いたり、防犯システム販売会社の社長をお招きしたり、銀行の検査部より来て頂いたりしています。また、特に興味を引く仕事に携わっているメンバーが講師となることもあります。いずれの場合も、同じソフトウェア業界にいても新鮮な感動がある会ばかりで、中には今悩んでいる問題のヒントに直接つながる場合もあり、大変実りのある例会となっています。

例会には1つのルールを作っています。当然のことではありますが、例会で得た情報はメン

バーだけの秘密であるということです。特に、資料は他に洩らすことは厳禁です。取り扱われる情報が企業秘密にかかわることがあるからです。その代わり、講師の方にはその条件で、できるかぎりオープンに資料提供して頂いています。話も生々しいことになってきますので時には秘密の談合をしているようなリアル感を持った例会となっています。これも参加率50%程なのが幸いしているようです。

現在の課題は『システム監査実務を体験してみたい』ということです。近くて、気心が知れていて、失敗して恥をかかなくて済んで………などと色々条件をつけて考えてしまうのではなかなか踏みきれません。何か良い知恵はないでしょうか。せっかく通った国家試験も単なる技量の認定ではどうしようもないわけで、やはり他流試合をして実力をつけたいものです。システム監査は流行が終わったのではなくて、もの珍しさの時代が終わったのだと思います。これからが本当に社会のニーズが出て来る時代でしょう。

もうひとつの課題は、分科会の発足です。今は全体会でもちょうど良い人数ですが、もう少し増えるとメンバーのニーズが多様化し過ぎていつも不満が残ってしまうことになりかねません。せっかく入会頂いた方の満足感をぜひ高めたいと思っています。

第2土曜の3時から5時まで勉強会をした後は有志だけで、いや、ほとんどの参加メンバーで懇親会を行っています。できるだけ大衆的な酒場でちょっとビールなどを引っかけながら取りとめのない話をするわけですが、久しぶりに学ぶために頭を使ったためか、程よくアルコールがしみて行きます。年末には本格的に懇親会を行います。いずれの日にか宵越しの研修会を行いたいと思いますもう少し時間がかかるよ

うです。

システム監査というキーワードの下に集まった業界的な集団、まじめな勉強家、将来の発展にかける男たち、ソフト業界は俺だという自信家、本当に優秀なSAというのが名古屋支部です。将来、皆さんの支部にお伺いするかもしれません。その時はぜひ暖かく迎えて下さるようお願い致します。協会の会報にてまたお会いしましょう。

名古屋支部 No.124 原 善一郎

事例研究会からのお知らせ

事例研究会の運営は次のように行っていますので、奮ってご参加下さい。

〔運営方針〕

① 定例会の開催日は原則として、第二火曜日とする。

但し、出版準備期間中はさらに別に月1回出版準備のための会合をもつ。

② 開催場所は、麴町 三井情報開発(株)会議室とする。

③ 幹事(座長、事務局、会計)はメンバーの互選とする。

<現在の幹事>

座長：鈴木実氏(商船三井システムズ(株))

事務局：打矢隆司氏(三井情報開発(株))

会計：小坂志郎氏(安田火災海上保険(株))

なお、議事録は当日の参加者持回り。

〔連絡先〕

当事例研究会に参加をご希望の方やお問い合わせは下記までお願いします。

三井情報開発(株) MBKプロジェクト開発一部
打矢隆司 TEL 03-5245-3118

監査技法分科会 活動報告

活動内容

現在、分科会のメンバーは9名で月に一度の活動を行っており、毎回の参加者は4～5名でSACレポートの第三分冊の「監査における情報技術の活用」のセミナーを行っています。分科会の活動自体は89年6月から開始しており途中、10カ月程の休止をはさみ今日に至っており、休止するまでの前期は、システム開発時点での監査のチェックリストを作成しデータベース化したいなという壮大な計画で息切れがしてしまったのと、参加者が非常に忙しいということで休止という状態になってしまった。その要因はいろいろと考えられるが、技法自体がそれ単独で存在するだけでなく、監査対象領域や監査の方法論に依存する訳で、非常に広範囲であるという事と監査の方法論が確立していない事によると考える。(システムの開発領域でいえば、ある人によれば品質保証であり、ある人によればプロジェクト管理であるといった具合)このことは、ある意味で現在のシステム監査の現状を現しているかも知れない。(ちょっとおおげさか? 単に分科会運営のまずさかも)

そんな塩梅で、今回は学習に徹しようということで、SACレポートをきちんと読んでみようという事になった次第です。現在は、第4章まで進み、途中、付録の暗号、ウィルスについてを読み合わせを行っています。今まで原本をきちんと読んだ事はなく、読んだとしても斜め読みで判った事にしていた悪い癖があり、丹念に逐次訳を行うのは大学入試以来というわけで非常に苦勞しながら読んでおります。(また、文章が固い?)ともすれば、英語の勉強会かなと思ったりしています。

SACレポートとは?

米国内部監査人協会(IAA)が1977年に刊行した最初のレポートの改訂版としてITA Research Foundationの主導で1990年に、IBM他の助成のもとにプライス・ウォーターハウスにより実施された調査レポート(System Auditability and Control Report 略してSAC report)である。構成は、13の分冊からなる。以下にその構成を記述する。

- 第1分冊 エグゼグティブ・サマリー
- 第2分冊 監査及び統制の環境
- 第3分冊 監査における情報技術の使用
- 第4分冊 コンピュータ資源の管理
- 第5分冊 情報システムおよび開発システムの管理
- 第6分冊 ビジネス・システム
- 第7分冊 エンドユーザ及び部門別コンピューティング
- 第8分冊 テレコミュニケーション
- 第9分冊 セキュリティ
- 第10分冊 コンティンジェンシー・プラン
- 第11分冊 新しい技術
- 第12分冊 索引

この第3分冊を輪読しております。

第3分冊の内容

今まで、監査への情報技術の適用については、汎用監査ソフトウェアとかテストデータ法とかが紹介されてCAAT(Computer assisted auditing technique)と呼ばれてきたが、この分冊では、この用語を使用しないと宣言している。理由というのは、「監査での情報技術の役割を過度に制限する。」からとなっている。ここでは、情報技術は単に監査の実行時点での証拠集めの道具として使うのではなく、もっと広く監査人自体が監査の計画や、報告時点での道

具として活用すべきであるという事にある。具体的にいうと、監査部門の選択や、計画、詳細なスケジュールを作成する際に道具としての情報技術を使いこなすべきであるというものである。このことで監査人自体の生産性や、監査の品質を向上しなさいということである。

従って、この分冊では以下の内部監査過程に対する情報技術の使用を論じる事になる。

- ・ 監査機能の管理
- ・ 個々の監査の計画や監督
- ・ 監査の実行
- ・ 監査結果の伝達

従来の技法は、監査の実行過程に対応するものである。

所 感

監査対象のシステムが様々であるように、監査もシステムに応じてやり方を設計しなければならなくなってきていると考える。即ち、監査も定型業務ではなく、非定型業務であるということだと思ふ。この非定型業務を実行して行くには様々な情報技術の支援が必要である。表計算、ワープロ、データベース、ハイパーテキスト、電子メールなどの情報武装が監査人自体に必要となってきた。監査人がこれらを使いこなし、監査人同士で情報を交換しながらグループで仕事を実行していく時代がきている訳である。監査の仕事自体、非常に創造的に行う必要がある。今後、監査人同士の知的生産技術の活用と、それを通じてのグループウェアが必要になってきている訳である。

p. s. 分科会は気楽に開催しておりますので、ぶらりと立ち寄ってみて下さい。

No.192 木村陽一

協会パンフレット

当協会の概要を説明したパンフレットが、更新されました。

従来から、当日本システム監査人協会の紹介をするためのパンフレットを作成していましたが、平成4年度総会での規約の改定・役員の交替・事務局の移転等に伴い、内容を一新して作成しました。

内容は、従来同様に設立趣意・規約概要・研究会及び分科会の紹介・役員紹介・入会手続きから構成されています。今回は縁取りを小豆色にして、従来のものと区別しています。

10月18日に行われた情報処理技術者試験（システム監査）の東京地区会場で受験者に配布したほか、各種のシステム監査関連の講演会・セミナー等の会場でも配布し、当協会の宣伝と入会促進をはかります。

会員でパンフレットを入手希望される方は、事務局まで電話またはFAXでご請求下さい。

事務局からのお知らせ

<会費振込みのお願い>

本年度（平成4年1月1日～平成4年12月31日）の会費（正会員10,000円準会員8,000円）を未納の方は、下記宛にお振込みください。

{	郵便振替口座	東京 1-352357
	加入者名	日本システム監査人協会事務局
	銀行振替口座	第一勧業銀行 北沢支店 普通 1053488
	口座人名	日本システム監査人協会 事務局 鈴木 信夫

会費振込に際しては、必ず会員番号をご記入願います。

<住所変更について>

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

新任副会長・理事紹介

今回、新しく副会長・理事に選任された方々に自己紹介をして頂きました。なお、平田哲康理事は次号で紹介させていただきます。

副会長 牧野 恭人

外資系コンピュータメーカーに途中入社した昭和43年、私は始めて本格的にコンピュータと出会いました。本格的に…とは大学でも勉強したはずなのに、まったく成果が実感できていなかったからです。その甲斐あって、英文マニュアルはわからない、専門用語のイメージは湧かない、先輩がまとめた資料を見せてもらっても、英文がカタカナに置き替わっている程度で理解できないといった状況でした。ですから、お客様へ出向く時は冷や汗ドキドキ、ただただ誠意ある努力を切り札になんとか初期の津波を乗り切ったものでした。

その後十数年の間、コマース・インダストリー系を中心に、いろんなシステムを手掛けるようになって「コンピュータは所詮道具だ。業務が解らなければ、いいシステムは組めない」と実感、現在の会社へ転職することになりました。

さらにシステム化の仕事を進めること十余年、この間発生した疑問は「システム化屋さん」という物足りなさでした。「業務だけでなく、システムの上位目的である経営が分らなければ…」そして「企画・設計したシステムが監査の観点から見てお粗末なものであれば意味がない」と感じ、システム監査の重要性を痛感したものです。その結果、監査に入れ込み、当会はもちろん監査学会にも在席し、CISA試験もクリアしました。

コンピュータから業務へ、業務から経営へ、

そして経営の視点から監査へとたどたどしくも精一杯基本的なことを学んでみて気付くことは、今こそ、コンピュータの正確な知識が必要という事です。…歴史は巡るということでしょうか、セカンド・ギアにチェンジしたと考えるべきでしょうか…「ダウンサイジング、オープンって…?、マルチメディア、マルチベンダーのメリットや信頼性は?」「LAN、NOS、GUIプロトタイピング、RDB、4GL、CASE、EUC、OSI、EDI、SIS、CIM、コンピュータ・ウイルス、ベンコンピュータ…」と種々の概念が加速・膨張的に発生しています。

経営の視点に立ち、ニーズと戦略性を踏まえた組織体制でのシステム化の企画を支援し、法的規制やクライアントの実力を見極めた段階的導入を考慮、リスクを少なくするとともに、そのリスクを認識し、コントロールを意識した正確で経済的なシステム化を推進するには、最近の様々な新しい考え方と道具の特徴や限界についての正確な知識を欠かすことができません。

もともと、道具と思ったコンピュータも、今や社会や企業から家庭へと巨大なインフラとしてのたゆまぬ変化を続けています。単なる道具から企業・社会基盤へと成長することによって、今後はコンピュータ犯罪、知的所有権やプライバシーの問題もおそろかにできないでしょう。情報を扱う者として、健全な情報化社会へのシッカリした考え方を持ち、情報リテラシーを高めていくことも必要と感じます。

末筆となりました。当会の最大の特長は、情報システムの監査を、何より実践的・実務的にとらえるということではないでしょうか? 皆様のご意見・ご参加を頂き、現実、現場、現在を大切に生きた、具体的なシステム監査について考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

理事 相川 正克

今春、登録企業会員として本協会に入会したNTTデータ通信株式会社のシステム監査窓口をつとめていたことから、今回法人理事を引き受けることになりました。

本協会へは、昨春、波田理事の熱心な勧誘で入会しましたが、これまで研究会に数回出席した程度で、分科会等にも参加せず、あまり熱心な会員ではありませんでした。今後は法人会員理事として、法人部会を中心に少しは皆様のお役に立てるよう活動しようと考えています。

私は、日本電信電話公社（現NTT）に入社以来、全国銀行協会為替ネットワークシステムの開発や運用業務の管理等を約22年間経験しました。一昨年秋に担当の者に情報処理関連試験の受験を薦めた際、自分でもシステム監査技術者試験に挑戦してみようとして合格したのが契機で、考査室システム監査担当に着任しました。考査室は、会報前号の「登録企業紹介」で紹介して頂きましたように、当社のシステム監査窓口です。

当社のシステム監査は、システム・インテグレータとして、システム開発・運用段階での信頼性・安全性の側面からの品質保証活動の準拠性監査が主体です。今後は、システム監査企業台帳登録企業として、お客様ニーズの強い「情報システムの有効性監査」を実施できるようにすることが課題だと考えています。

このために、日本システム監査人協会を法人会員相互の情報交換や研鑽の場と捉えて活動して行きたいと考えています。

理事 中島 重夫

システム監査をいかにビジネスに結びつけるかを考えてはや5年、200社近くの監査部・監査室・検査部・監査役に導入を薦めてきました。

徐々にビジネスに結びつきつつはありますが非常に時間がかかっております。だからといっては何ですが、忍耐力・精神力・体力をつける為に、土・日はジョギング・水泳・テニスに明け暮れ、フルマラソンも完走しています。

情報システム関連の人々が「暗い」「ストレスがたまっている」といった状況から、日本では第一期の余暇生活開発士といった資格もとり、これらの人々の「ゆとりと豊かさ」の追求にも努めております。

今回、日本システム監査人協会の理事を引受けさせていただき、法人部会において日本でのシステム監査の普及に、積極的に取り組まさせていただきますと思います。皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

理事 一村 義夫

今般、登録企業部門の理事に就任いたしました一村でございます。システム監査は必ずや、社会的、経済的に普及・定着するものと確信しており、協会理事の立場でこれの促進に関わることが出来ますこと、心から嬉しく思っております。

微力ではありますが、システム監査を通じ、情報化社会の健全な発展のために専心努力する覚悟ですので、役員・理事の皆様並びに会員の皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

簡単に業務経歴を紹介します。昭和21年生まれ。九州大学理学部物理学科卒。株式会社日本ビジネスコンサルタント入社（現株式会社日立情報システム）、入社後5年間は、人工衛星、ロケットの姿勢制御・弾道計算、原子炉の安全設計計算関係のソフトウェア開発に従事、2年間、通産省の「プログラム生産技術プロジェクト」で協同システム開発株式会社に出向。その

後、企画、マーケティング、調査関係の業務を担当。平成4年8月21日付で、情報セキュリティセンタのセンタ長として情報セキュリティ管理を担当。情報処理システム監査技術者試験には昭和63年合格。これがシステム監査に関わることになったきっかけになる。システム監査室の主管システムコンサルタントを兼務し、社内システム監査にも従事。

会員企業紹介

日本コンピュータセキュリティ株式会社
(NICOSE)

資本金：4億9千5百万円

主要株主：セコム(株)、日本電信電話(株)

社長：荻野輝雄

日本初のシステム監査専門企業

日本コンピュータセキュリティ株式会社は、社会に安全を提供するセコム株式会社、高度情報通信サービスを推進する日本電信電話株式会社(NTT)、及び企業のトータルアドバイザーとして世界にネットワークを有する監査・コンサルティング事務所のプライスウオータハウス(日本法人は青山監査法人)のそれぞれに専門分野を持つ3社が、持てるノウハウと技術を結集して、昭和60年10月に設立した会社である。

業務内容は大きく分けて、つぎの4分野にわたっている。

- ① コンピュータシステムのシステム監査
- ② 高度なシステムの企画開発から運用までをカバーするシステムコンサルティング
- ③ 通信ネットワークの構築支援のためのネットワークコンサルティング
- ④ コンピュータシステムや通信ネットワークのセキュリティ診断

この他に、コンピュータシステムの開発やセ

キュリティ機器の販売、教育・セミナー等も行っている。

業務内容から分かる通り、コンピュータシステムと通信ネットワークの高度で専門的な知識をフルに動員して、いち早くシステム監査の分野に参入した会社である。

各分野一流のスタッフ陣

会社設立の経緯からもうかがえるとおり、セキュリティ分野、通信ネットワーク分野及び会計監査分野の一流のノウハウを有する企業からの出向者により、スタッフ陣容を整えている。

現在、出向者を含む役員及び社員数は約40名であるが、通産省のシステム監査技術者試験合格者が5名、公認会計士有資格者が2名と強力な陣容である。

やっと見えてきたシステム監査市場

創業当初は、システム監査といっても運用中システムの信頼性・安全性に関する監査が中心であった。このため、採算抜きでシステム監査を請け負う等の啓蒙的活動も多々行ってきた。

その甲斐あってか、日本でも徐々にシステム監査の必要性が認識されるようになり、安全性の監査から企画開発段階の効率性に関するシステム監査へと関心が移りつつある。

現在では企画開発段階等上流工程のシステムコンサルタントの依頼が多くなってきている。

例えば、企業において内部システム監査を導入したいが、その組織や運用をどのようにすればよいかといった純粋なコンサルタント依頼や、損保会社の外部システム監査を数回にわたって様々な角度から依頼される等、実質的な年間契約型のコンサルタント依頼も受注している。

特に、最近ではバブル崩壊に伴う景気の減速で、金融機関や一般企業の経費節減の影響が深刻である中、地方自治体からのシステム監査依頼が増加傾向にある。地方自治体においては、コン

ピュータ投資の妥当性を第三者たるシステム監査企業に監査してもらうことで、住民等に証明する必要が生じたものであろう。

このような市場にあって、年間売上10億円を達成していることは、日本のシステム監査市場の成長の芽が息吹いてきた証であろうか。

得意分野は幅広く

公認会計士のスタッフがいることもあって、会計システムのシステム監査は特別な得意分野であるが、監査対象システムや業務内容の特質及びお客様のシステム監査の目的に合わせて、各分野の専門家を適宜組み合わせることで監査チームを構成している。監査の実施に当たっては、会社独自のチェックリストを使用して、通産省のシステム監査基準やFISCの金融機関等コンピュータシステムの安全対策基準に則ったシステム監査としている。

また、NTTから出向している情報通信技術者を中心としたネットワークの機密保護、安全性・信頼性の確保、回線利用の効率化及び通信コストの経済性に関する監査も得意分野のひとつである。特に、郵政省の情報通信ネットワーク安全性・信頼性基準適合認定や通産省の情報処理サービス業電子計算機システム安全対策実施事業所認定等の取得にかけては、最低限度の費用で取得できるノウハウを多数有している。

ある金融機関では、3年に一度の大蔵省検査に於いて、当社の安全対策に関するシステム監査レポートを参考資料として提出したところ、検査官が大いに感心され、お客さまからたいへん喜ばれたということもあった。

コンピュータメーカーやソフトハウスに対して中立の立場を保持しており、客観的評価及び改善案が提案できる点でお客さまから信頼を得つつある。

この他に、通産省のシステム監査技術者試験

受験のための通信教育・公開セミナーの実施や、特定企業の「システム監査」「システム監査技術者育成」のための講座等も実施している。

更に、コンピュータ室の入退室管理装置や管理システム、コンピュータールーム監視システム、パソコン用暗号ソフトの販売も行っている。

悩みは、まだまだ低い報酬額

会社としては、システム開発SEのマネージャークラス以上の人件費報酬を請求したいところであるが、システム監査の報酬基準等が出ていない事もある、コンサルタント業よりも安いのが現状である。要求どおりの報酬を支払ってもらえることは少ないとのことであった。

システム監査人協会の登録企業会員として、システム監査業の標準報酬額を設定する等の必要をひしひしと感じるが、この場合最低報酬額を決めるのであって、上限についてはそのサービス内容如何で決まるものであるとのことであった。

夢は業界のリーディングカンパニー

創業当時から考えると、今はコンピュータシステムや通信ネットワークも高度化し、システム監査に対する需要も徐々に増えつつある中、現在10億円の年間売上をいつの日か100億円にしたい。その時日本コンピュータセキュリティ株式会社は、システム監査業界のリーダの立場に立つことになるかも知れない。

「システム監査に関しては、他社には絶対に負けない」という中島取締役の言葉の中に、この会社の将来の姿を見たような気がした。

所在地：東京都千代田区九段南3丁目3番6号
ニッセイ麹町ビル(〒102)

電話：(03)3222-5111・FAX：(03)3222-5115
(取材にあたっては、日本コンピュータセキュリティ株式会社の藤田芳弘取締役、中島重夫取締役、川俣勉部長のご協力をいただきました)

No.249 波田 直登

システム監査人日誌

— 第2回 —

平成4年1月27日月曜

昼食も終わりリフレッシュ・ルームで歓談していた若い男女社員がそれぞれの職場に戻るざわめきが伝わってきた。「力久さん、そろそろ戻りましょう。」少し力みがちに言葉をかける。少々緊張しているのであろう。

監査業務に当てられた部屋は、3階であった。長方形のテーブルが九つとホワイトボードが用意されていた。かなりのドキュメントを備えても作業はやり易そうであった。

「力久さん、まず会社概要調査表に基づいて御社の営業の内容を伺いたいのですが。」

「営業の内容としましては、まずキャッシングです。キャッシングはお客様毎に与信限度を設定させて頂きまして、その範囲内でご自由に利用して頂く商品でございます。無担保貸付です。このキャッシングがわが社のメインで貸付額は平成3年3月期で約1千2百億円です。営業収入の約6割を占めております。次に大きいのはゴルフ会員権担保ローンで貸付残高が7百億円です。営業収入の1割5分を占めています。そのほかに有価証券担保ローン、不動産担保ローン、絵画担保ローンなどあります。“クレジット”という社名ですがJCBさんやDCさんのようなカード会社ではありません。」何等の感情も加わることなく説明する姿は謹言実直そのものである。力久は大手鉄鋼メーカーの日本スチールからその手腕を買われ当社の監査室長として招かれたのである。

「ちなみにゴルフローンの取引口座数はどのくらいですか。」

「約7万口座です。また新規契約は月2千件程度です。返済データは当然月約7万です。」

「これらの営業と情報システムとの関係はどのようになりますかね。飯塚さん。」

「はい、キャッシングのシステムが基幹システムと言えるものです。南は沖縄から北は東京まで103カ店および53カ所の店舗外ATMと専用回線で繋ぎ契約、貸出、利息の徴求、返済事務をリアルに処理しています。もちろん各地域の情報センターとはオンラインで結び、お客様の当業界における取引の状況が適時に入手できるシステムになっています。これによって多重債務者への貸出を防止しています。私達の業界もコンピュータとネットワークの発展のおかげで成り立っていると言って過言でないと思います。とにかくキャッシングのお客様は約45万人で1日の取引件数は4万から5万件ですから。また、月1回の返済日が近づくオートコールシステムによりお客様に利払いおよび返済日が何日であるか知らせています。オートコール・システムは各地区の母店にあります。例えば、中国地区は広島支店、近畿地区は大阪支社といった具合です。」飯塚部長が得意満面そうに説明してくれた。

「それほどの処理件数ですとシステムダウンしたら大変ですね。お客様に迷惑かけますしね。」セキュリティに対しどの程度の対策が行われているか疑問に思いつつ質問する。

「その他の貸付業務のシステムはどのようなものですか。」

「ゴルフ会員権ローンは、福岡の本店営業部、大阪支社、東京支社の三カ所で取り扱っております。新規募集の会員権の融資は、その額をゴルフクラブの取引銀行に振り込まれ、当社はその債権を買い取ったような契約形態になっています。ゴルフ会員権ローンは元利均等返済が約定になっておりキャッシングのシステムとは異なります。返済も現金でなくお客様の取引口座か

ら自動引き落とししていますので、この点からも異なりますね。」

「有価証券担保ローンはどうですか。」

「有価証券担保ローンを扱っている事業所はゴルフローンと同じです。有価証券担保ローンは銀行の証書貸付と同じと考えてください。担保の掛け目は7掛けです。当然このシステムには担保情報がもたれています。掛け目割れしたらリストが業後出力され追担保の手続きがすぐ取れるようになっていきます。有価証券担保ローンは、不動産担保ローン、絵画担保ローンと同じシステムです。事務上の手続きが若干異なっているのみです。融資は現金でなくお客様の指定口座に電信振り込みされます。また、返済についてもゴルフとは異なり、単名手形を債務者より受取り手形の期日が近くなると銀行に取立依頼をして決済されたことを確認して、各取扱い店の端末から返済入力します。入力する人は原則としてキャッシングの担当者と分離されています。」

「未収利息、前受利息等の月次処理のシステムはそれぞれの貸付オンライン・システムとどう関係していますか。」

「月次決算に反映させる未収利息や前受利息の計算処理は、月末の業後オンライン処理データを吸い上げ、月次のバッチ処理で行われています。」

「不良債権の償却はどのような基準で、またどのような手続きで行っているのですか。またそれらのデータ処理はメインの貸付システムとどのような関係になっていますか。すなわち、償却された債権をどのようにシステムで管理しているのかお聞きしたいのです。」

「償却済み債権については正常債権とは約定も異なりますし、また管理手続きも異なりますので“償却済み債権管理システム”を営業貸付

金システムのサブシステムとして開発して、そのシステムで管理しています。もちろんオンライン処理です。」飯塚部長の説明に熱気が加わってきて身を乗り出すようになり二つの顔が接近してきた。「同業者の中には、この償却済み債権の管理システムがないため手作業の事務が煩雑になり、事務処理上の誤りも少なくないようです。私どものシステムはそのような心配は入りません。このシステムは他社に自慢できるシステムであると思っています。」と誇らしげに説明してくれた。

「正常債権に対する利息徴求には問題はないと思いますが、延滞債権や不足金等例外的な状況が発生した場合の利息計算およびその徴求はどのような考え方および手続きで行われていますか？」

「ご質問はキャッシングですか？」

「そうです」

「キャッシングは、年利25.5%です。日歩7銭。利払日から4営業日は延滞損害金は計算されません。約定利率で利息計算されます。それを過ぎると日歩8銭となり29.2%となります。不足金がある時はその不足金は何日分の利息に相当するか計算し延滞日数に加算されます。すなわち、当社での経過日数は利払日からの単純な経過日数ではなく不足金をも加味した実質的な経過日数を認識しています。」

「なるほど……。営業方針、業務の特質、営業部門のニーズを良く認識した上で基本構想、基本設計されてるようですね。」

「このシステムは、わが社の命運を賭ける気概で開発しましたから。このシステム構築によりお客様は3年以内にお客様の懐具合と相談して自由に利息支払、返済、借り増しが可能となった訳です。まさに私どもは戦略的情報システムであると自負しています。」

「次にゴルフ会員権ローンについてもう少し詳しくお聞きしたいのですが」

☆☆☆☆☆

営業の概要と営業システムの概要を聴取し終わった時、薄暮に包まれた平和台陸上競技場と平和台野球場が窓越しに望まれた。インタビューの間ずうっと記録していた藤田と山内はさすがに疲れた様子で深くため息をついていた。
(つづく)

著書紹介

システム監査試験の徹底研究 (第3版)

— コンピュータ技術者のために —

(日本ユニシス(株)システム監査研究会 著)

当協会の会員も参加している日本ユニシス(株)システム監査研究会が、コンピュータ技術者のシステム監査試験受験のために書いた受験対策書である。

昭和61年にシステム監査試験が始まって以来の、出題傾向の分析に立った例題と解説が示されている。

コンピュータ技術者にとっては、監査理論と財務・経理・各種の法令などコンピュータ周辺の知識に関する出題と、午後の論述式問題が最大の難関である。

本書では、これらに対する対策が十分に考慮されていることに加えて、全体の約30%の紙数を午後の論述式問題の対策に当てている点が特徴である。更に論述式では合格者による論述例が19編も紹介されていることは類書に例がない。また最終章では「合格論文の書き方」について詳しく解説している点が特筆される。

東京電機大学出版局発行 248頁2266円

(推薦者 No. 249 波田 直登)

「システム監査技術者特別養成講座」

(企画元 情報処理開発研究所)

当協会の会員4名(梅津、蓮見氏等)が中心となり、情報処理システム監査技術者試験受験のためのビデオ教材が作られました。当講座は、自らの体験をもとに受験者の立場になって、システム監査試験合格のためのポイントが1巻60分のビデオ全10巻と合計10冊のテキストに平易な解説で体系的にまとめられており、また記述論述対策、通信添削、実力診断テスト等も組込まれている点が特長であります。日々の業務に追われていてまとまった講義に出席できない忙しいサラリーマンの方や、企業等でグループ学習をする場合に最適かと思われます。

定価は29万円ですが、4名を代表して梅津氏が代理人となっているようで、梅津氏を通して申込みをされると協会会員割引で入手できるそうです。皆様のまわりにこれらシステム監査試験に挑戦したいという方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介をお願いいたします。

(推薦者 No.332 斎藤 隆)

著書発行予告

と特別頒布のお知らせ

日本システム監査人協会編著

「システム監査の基礎と実際

— システムの健康度をチェックする」

本書は、当協会のシステム監査事例分科会の会員が、実際の企業のシステムを手分けして監査した経験に基づく研究の成果です。発行予定12月中旬。詳しくは同封のパンフレットを参照して下さい。

本書を、東京電機大学出版局の多大なご協力により、次の要領で会員に特別配布します。

3,058円(定価2,678円+送料 380円)のところを、

- ① 協会補助付き 1冊1,400円(送料込)
 (個人会員1人1冊、法人会員1社5冊迄)
 申込み:下記用紙AをFAXか郵便で
 宛先:東京電機大学出版局業務課あて
 送金先:日本システム監査人協会口座へ

申込み:下記用紙AをFAXか郵便で
 宛先:東京電機大学出版局業務課あて
 送金先:本に同封されてくる振込用紙で、
 東京電機大学出版局口座へ
 送料:1冊=380円、2冊450円
 3冊=520円、4~5冊590円
 6冊~ =830円

- ② 協会補助なし 1冊2,142円(送料別)
 (著者購入扱いとし、冊数制限なし。紹介会
 員名明記のこと。)

用紙A

「システム監査の基礎と実際」		注文先	必ず郵送かFAXで	
日本システム監査人協会 会員注文書		東京電機大学出版局業務課 〒101 東京都千代田区神田錦町2-2		FAX 03-5280-3563
会員番号		会員氏名	個人 1冊 法人 冊(5冊まで)	
住所	〒		連絡先電話番号 (勤務先/自宅)	

(支払明細)

金額	個人 1,400円 法人(計) 円	支払方法 郵便/銀行	支払予定日 月 日	支払名義人 (会員名と異なる場合)
支払先	郵便振替口座:東京1-352357 加入者名:日本システム監査人協会 事務局		銀行振込口座:第一勧業銀行北沢支店 普通 1053488 口座人名:日本システム監査人協会事務局鈴木信夫	

用紙B

「システム監査の基礎と実際」		注文先	必ず郵送かFAXで	
注文書		東京電機大学出版局業務課 〒101 東京都千代田区神田錦町2-2		FAX 03-5280-3563
申込者				注文冊数 冊
住所	〒		連絡先電話番号 (勤務先/自宅)	
紹介会員氏名:			(申込者と同一の場合は番号のみ)	
(同会員番号):				

発行所 日本システム監査人協会
 発行人 川野 佳範
 事務局 〒157 東京都新宿区西新宿3-2-11
 新宿三井ビル2号館
 (株)産能コンサルティング内
 TEL.03(3343)5820 FAX.03(3343)5820
 ※ご連絡はなるべく郵便または、FAX

会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
 波田 直登 NTTデータ通信(株)
 TEL.03(3804)8267 FAX.03(3804)8291
 徳武 康雄 富士通(株)
 TEL.03(5210)5672 FAX.03(5210)5953
 今井 純子 公認会計士今井純子事務所
 TEL.03(3992)9381 FAX.03(3992)2450